

・造形芸術コース・専門教育科目・立体基礎演習

対象学生：造形芸術コース一回生11名

## 立体基礎演習について

担当：美術教育講座・向川信博

### 1. 授業の概要

本授業は、立体を造形するうえでの基本的な考え方や見方を、可塑性のある粘土を用いて模刻し学ぶ、立体デッサンの授業である。受講者は、造形芸術コース一回生11名で、平面のデッサンは全員経験を積んでいるが、塑造経験者は数名である。

模刻は回数を重ねる必要性を感じており、以前は2点の制作をおこなっていた。しかし石膏取りを行うとスケジュー尔的にきびしくなり、今年度は、模刻一点と、作品台座制作をおこなった。

制作に入る前の粘土練りや、制作台、心棒造りを各自でおこない、制作終了時ごとに出る石膏くずなど廃棄物もそれぞれが処分するようにし、準備と整理を含めて制作とした。終わりに、取り組み姿勢について考え、自己評価をした。

### 2. 授業の目的

- ・ 立体造形の基本的な考え方や見方を理解する。
- ・ 粘土を用いた石膏像の模刻を通して造形の基本的な組み立てを理解する。
- ・ 量感を考える。
- ・ 均衡感を考える。
- ・ 空間を意識する。
- ・ 心棒をつくる。
- ・ 石膏取りができる。

関連するディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標）：地域社会の造形分野に関する文化振興に貢献するため、高度な技能と豊かな表現能力を身につけている。

### 3. 授業のスケジュール

- 第1回 立体構成の基本的な観点や、制作過程のガイダンス
- 第2回 心棒の制作と粘土の準備
- 第3回 クロッキー
- 第4回 肉付け  
～ 粘土完成・講評
- 第8回 石膏取りについて
- 第9回 石膏雌型制作

- 第10回 粘土かき出し
- 第11回 石膏流し込み
- 第12回 割出し
- 第13回 割出し・修整
- 第14回 台座制作
- 第15回 合評・総括

### 4. 用具・材料について

粘土、石膏などの造形材料、粘土用・石膏用籠、心棒用木材、道具等は用意されている。

### 5. 評価について

取り組み姿勢を勘案し、作品によって評価した。作品評価は、質、完成度のみならず制作過程における追求内容なども含めた。

### 6. アンケートについて

授業の最終日に以下の項目で自由記述によるアンケート調査をおこなった。

- ①自身の取り組みについて（研究状況、姿勢など）
- ②授業内容について
- ③授業実習で学んだこと、それを今後どのようにいかすか
- ④その他

### 7. アンケート結果（受講生が記述した文章を転記する。）

- ①自身の取り組みについて（研究状況・姿勢など）
- ・ 意欲的に制作できたと思います。
- ・ 自分が納得できるところまで、どこまでも手を加えられるので、どこで終わりにするか、、、難しい。
- ・ いろいろと時間がかかったが、楽しめた。
- ・ 試行錯誤を重ねた。
- ・ 納得いくところまで、できた。
- ・ 地道に取り組んだ。
- ・ 初めてのことが多く、大変興味深かった。
- ・ 石膏取りの過程では、根気のいる事が多く、若干気が抜けてしまった感があった。
- ・ 指摘されたことをもとに、改善しようと試みた。
- ・ 授業時間外も使うなど意欲的に取り組めたと

思う。

- ・ 一つ一つの作業を大切にすることを心がけた。
  - ・ 毎時間ごとの準備、制作、片づけの大切さを感じて気持ちよく、取り組めた。
- ② 授業内容について感じたこと
- ・ 「全体を見る」ということがわかった気がする。
  - ・ やらなければならないことが多く難しかった。
  - ・ 一つ一つ教えて頂いて、しっかり理解しながら進むことができた。
  - ・ 15回まで内容が豊富で、大変な作業も多々あったが、充実していた。
  - ・ 全体をつかむこと、一つ一つの作業をしっかりと行うことが大切だと感じた。
  - ・ 模刻を題材にすることで、基本を学べてよかったです。
  - ・ 初めてのことが多く手順を追うことでいっぱいでした。
  - ・ 時間をかけて作業でき、じっくり学べてよかった。
  - ・ はじめての経験でしたが、楽しく制作できました。
  - ・ 全く知らなかった制作の流れを経験することができた。
  - ・ 制作過程一つ一つの大切さが、身にしみて解った。
- ③ 授業実習で学んだこと、それを今後どのようにいかすか
- ・ 全体を見るということ。
  - ・ 塊を意識すること。
  - ・ 物をみるとき視点が変わりました。他の分野の作品制作の中でもいかにしたい。
  - ・ 3次元の物の、的確な形の把握のしかた。
  - ・ 自分にとって新しい捉え方や、意識の仕方を学ぶことが出来た。
  - ・ 空間や動き、量感などについて。
  - ・ 具体的な彫刻の技術。
  - ・ 立体に対してどのような方向で取り組めばいいのか解った。
  - ・ 何を課題に制作すれば良いのかが、明確になった。
  - ・ いろいろな方向から見て、特徴をつかむことの大切さに気づいた。
  - ・ 実際に造ってみると、「よく見ていた」ことが、つもりだったのがわかった。
  - ・ 石膏の使い方。
  - ・ 見ることの大切さ。見方。
  - ・ 概念的にならないこと。
- ・ 非常に面白かった。楽しく制作できました。
  - ・ 全ての作業がはじめてで、色々失敗したり大変だったけど、粘土や石膏を使うのはたのしかった。
  - ・ 似てるか似てないかではなく、強く存在しているかいないかということ。
  - ・ 全てのものを作る機会に生かせると思う。ものを内側から組み立てる、はじめての経験でした。
  - ・ 一つの作品を作り出すまでにすごい量の作業が必要だということがわかった。
  - ・ 制作時、個別に意見を言ってもらえたので進めやすかった。
  - ・ 塊で捉えたり、全体を見たりするという、立体だけでなく全ての作品制作に必要な考え方に気づくことができた。できあがった作品を見ることで、意識の足りない部分にも気づいた。
  - ・ 粘土での立体デッサンは、新鮮でした。いつもより問題がはっきり出るなと思いました。
  - ・ 空間を意識したいと思った。
  - ・ 今後の授業や制作に、学んだ新しい視点を反映させたい。
  - ・ 平面基礎で指摘されたのと同じ点が問題になったので、これからもっと丁寧に考えながら制作したいと思いました。
  - ・ 今回の制作で、自分の作品をあまり客観的に見ていなかったし、概念を排除できていなかったことに気が付きました。

## 8. 総括

毎回、計画よりも少し時間が多くかかったが、想定内である。アンケートは、授業内容について、基礎をしっかり学びたいという前向きな気持ちがあり、概ね肯定的な記述になっている。